

北海道雪氷桜プロジェクト実行委が 北海道マラソンナーを「ひまわり」で応援 「ひまわりの里」北竜町から佐々木康宏町長も参加

北海道雪氷桜プロジェクト実行委員会（委員長・越智文雄あかりみらい社長）は8月31日の北海道マラソンで、平岸地域の住民の協力を得て、コース沿道での「花応援」を行った。5回目の今回は「ひまわりの里」で知られる空知管内北竜町の

佐々木康宏町長も駆けつけ、一緒に声援を送った。

ダヤ私有地の敷地で花を振って各国のランナーに熱い声援を送った。

この取り組みは、東京オリンピックのマラソン競技の札幌開催をきっかけに始まった市民応援だ。五輪ではコロナ禍で沿道での応援が制限されたため、マンシヨンのペラン

北海道マラソンでの応援は5回目。昨年まで当別町の農家から提供を受けていたが、今年は北竜町からもひまわりが届いた。23日に約200万本のひまわりが咲く「ひま

わりの里」が観光名所の北竜町では今夏も7月から8月にかけて「ひまわりまつり」が行われ、大勢の来訪者でにぎわいを見せた。

応援場所は6^{キロ}過ぎの豊平区の平岸ハイヤー前。蒸し暑さを感じてきたランナーにとっては、ちょうど「元氣」を注入したい距離でもある。手を振りながら「きれい！」「ありがとう」と声をかけるとともに、立ち止まって写真を撮る人もいた。



▲生産地から札幌へひまわりを届けた（当別町）



▲北竜町の佐々木康宏町長（左）

この場所での応援が恒例となっているため、平岸街道では「フラワーロ

ードが待っていると楽しみにしていた」と3年連続で参加した男性ランナーは話す。

実行委では、東京オリンピックのレガシーと言える市民応援を、北海道マラソンの風物詩として定着させたい考えだ。



▲いちばん左が
実行委員会委員長の越智文雄氏



▲地域住民らがひまわりを手に
声援を送った